

松井道夫 (マツイ ミチオ)

松井証券株式会社社長



夜間先物取引の口座数、売買代金が順調に拡大

◆売買代金、および信用取引残高の減少が減収減益（前年同期比）の要因

2009年3月期第1四半期の連結業績は、営業収益80億円（前年同期比28%減）、経常利益37億円（同30%減）、四半期純利益22億円（同39%減）となった。前年同期比では減収減益であるが、直前四半期との比較では、ほぼ横ばいである。当社が収益性の指標として重視している営業収益経常利益率は46%で、ほぼ前期並みとなった。また、当社が経営指標として重視するROEは12%となった。

第1四半期の株式委託売買代金は4.1兆円（前年同期比24%減）となった。信用取引平均買残高は約2,000億円となり、前年同期の約4,000億円から半減した。その結果、委託手数料が19%減少し、金融収益も42%減少した。これが減収減益の要因である。

販売費・一般管理費は37億円（前年同期比26%減）となった。減少した大きな要因は、前年同期においてOHT株式に係る貸倒引当金繰入（約9億円）を計上したものの、当四半期においては同様の個別貸倒引当がなかったことである。また、前期の5月以降にシステムのアウトソース費用を大幅に削減したため、事務費が前年同期比で18%減少した。

なお、当四半期において、金融商品取引責任準備金戻入の計上を行っている証券会社もあるが、当社は戻入の計上は行っていない。

◆自己株式の買付けを決議

当社は、平成20年7月31日開催の取締役会において、資本効率の向上、株主への利益還元を目的として、自己株式の買付けを決議した。足元の自己資本規制比率は700%を超える水準に達しており、過去の実績からかんがみても高い水準を継続している。加えて、足元のROEは12%となっており、ROE10%以上を維持するという経営目標からも、資本の効率的な利用が必要だと考えた。

◆NetFxの売買代金が拡大

第1四半期の株式委託売買代金は4.1兆円となり、直前四半期と比較して増加した。マーケットシェアについては、5四半期連続で8%を維持している。4月から5月にかけてマーケットが若干回復した際、顧客の評価損が回復し、その結果、売買代金も増加した。しかしながら、6月後半からは株価が不安定な状況となっており、7月の売買代金は第1四半期の平均を下回る状況となっている。

期末の信用取引買残高は2,218億円となり、直前四半期比では増加しているが、当四半期の平均残高は直前四半期比で16%程度下落している。売買回転率は1.12回となり、直前四半期と比較して若干改善している。これは評価損益率の改善に伴うものであり、5月から6月にかけて、一時的ではあるものの、評価損率は平均でマイナス10%程度、制度にいたってはマイナス2%程度まで改善した。しかしながら、6月30日時点の評価損は平均でマイナス17.5%、制度でマイナス9.5%、新興市場でマイナス38.3%となっており、足元の状況と同様に、3月末の水準に戻ってきている。

先物取引については、売買代金が7.9兆円、マーケットシェアが21%となり、共に前年同期比で低下した。これは、第1四半期に先物取引を開始した会社が手数料無料のキャンペーンを実施した影響だとみている。

NetFx（外国為替保証金取引）については、手数料収入が3億円とほぼ横ばいで推移したが、売買代金は156億円に伸びている。今年2月に実施した手数料体系・スプレッドの改定効果が続いており、ネット証券の中で比較的大きな存在になりつつある。

◆即時決済取引、夜間先物取引が稼働

第1四半期の取り組みとして、5月から即時決済取引を開始した。システムは順調に稼働しており、口座数

も増加しているが、一方で、流動性の確保が課題となっている。5月には100万円以下手数料無料キャンペーン、6月には複数気配情報画面の改修、7月には売却手数料無料キャンペーンを実施するなど、施策は打っているものの、現時点では流動性を確保するに至っていない。今後も継続的に使い勝手の向上を図り、信用取引の導入に取り組むなど、即時決済取引口座内で売買が回転する状況を目指していく。

6月には夜間先物取引を開始した。取扱銘柄は、シカゴ・マーカントイル取引所（CME）に上場している日経225の先物（円建）である。口座数、売買代金共に着実に伸びており、サービス開始後1カ月で約定代金は1,000億円を突破した。直近の実績として、7月25日現在の口座数は5,403口座となっており、ピーク時には約定代金が107億円（7月11日）、CMEマーケットシェアが4.7%（7月25日）となった。ただし、実際に稼働している口座を見ると、昼間の十分の一以下となっており、今後は昼と夜を連動させるようなキャンペーン等に取り組んでいく。

（平成20年8月5日・東京）